

芦屋市立あしや温泉について

背景

芦屋市立あしや温泉の変遷と現状

【変遷】 芦屋市立あしや温泉（以下、「あしや温泉」）は、平成6年、当時、本市の「保健・福祉・医療」の総合的なサービスの拠点として建設を計画していた「（仮称）芦屋市保健福祉総合センター」内に、市民の方々にご利用いただける温浴施設を設置するため、兵庫県の許可を受け掘削しましたが、その翌年の阪神淡路大震災の発災により、計画を中断しました。そして同年12月、震災により倒壊した市内の公衆浴場の復活を希望する声に応えるため、掘削当初の目的を変更して、「（現）芦屋市保健福祉センター」建設までの間、過渡的に、被災された市民の方々のための公衆浴場として、「あしや温泉」を設置し運営してきました。その後、建設から約15年が経過した平成22年4月、現在の「あしや温泉」としてリニューアルオープンし、今日に至ります。

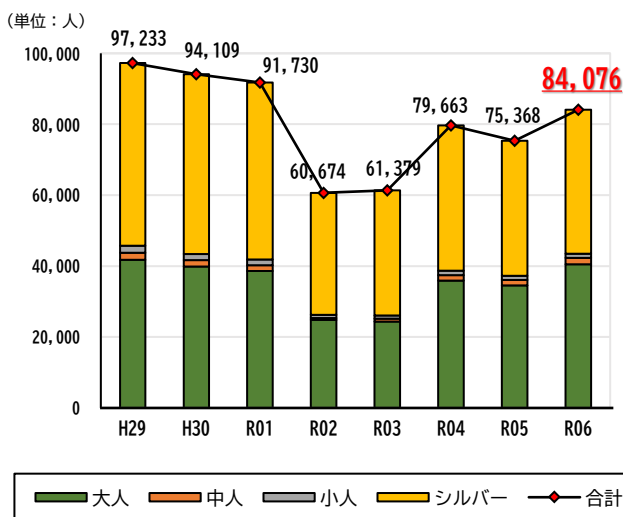
【現状】 あしや温泉は、「公共施設の最適化構想（令和3年策定）」にて、建築設備の更新時に今後の方向性の検討を要する施設と位置付けており、さらには令和8年度末、現在の指定管理者との契約が満了を迎えるところです。

また、あしや温泉は、公衆衛生の向上及び増進に寄与することに加え、利用者のふれあいの場として地域コミュニティ形成の機会としての役割も担ってまいりました。

この度、設備等の更新が必要となり、設備の更新時期、利用実態、設置目的に対して果たしてきた役割等を総合的に勘案した結果、市民へのサービスの提供及び機会の確保について、**現状での継続は困難である**と考えましたことから、源泉及び本施設の市場性等を把握し、最大限に活用する方法を模索するため民間事業者へ調査を実施した結果、あしや温泉の源泉等について、活用できる可能性を確認できました。✳

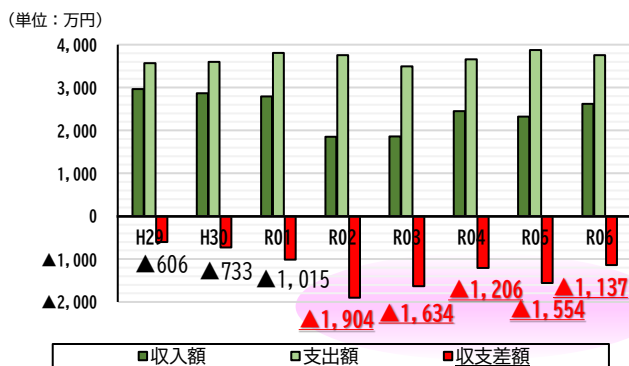
1 利用者の状況

- ① コロナ禍で落ち込んだ年間利用年者数は**8万人台**まで回復しましたが、**今後は人口減少によりさらに減少する見込み**。
- ② **利用者の半数が、固定的な高齢者層**。



2 収支の状況

- ③ 運営経費は年間約1,500万円（直近5か年平均）の収支赤字。
- ④ 人口減少・物価上昇等を加味すると、**今後に赤字が増大する見込み**。



3 施設の状況

- ⑤ 小規模改修（大型設備等の更新）に、約8,000万円、さらに施設の長寿命化（今後、45年間運営を継続するには、**約4億円**が必要）。

①～⑤のとおり、今後、あしや温泉の運営を継続するためには、少なくとも、**約10.8億円**を要する見込みです。

- ✳ 約10.8億円は、長寿命化に係る建築設備改修経費：約4億円と、毎年の収支差額▲約1,500万円×45年との合計です。
- ✳ 上記の改修費用を含め、支出金額は令和6年度時点によるものであり、以後の物価上昇等は考慮していません。
- ✳ その他、各種数値及び各項目の詳細については「芦屋市立あしや温泉（施設概要）（市ホームページ）」をご覧ください。



✳【民間事業者への調査結果】

- 複数社が事業実施の意欲あり
- 温浴施設のみ継続利用する案や、足湯のみ継続利用する案があった
- 災害時の市民の源泉活用は協定により実現可能

【今後の進め方】

公設公営での事業継続は困難であるため、民間事業者による「**源泉を活用した事業**」の提案を求めます。
提案募集にあたり、令和8年6月議会にて、芦屋市立あしや温泉の廃止について提案することを想定しています。

【お問合わせ先】 ・ 環境課（38-2050）（←あしや温泉に関すること）
・ DX行革推進課（38-2172）（←民間事業者への調査結果、及び今後の進め方について）